

市長から



市民のみなさんへ 56

山陽小野田市長 白井 博文

▼かわいらしい園児の絵を添えてお配りした敬老祝カード



市をあげて敬老祝事業を 実施することができました

敬老祝金支給条例の廃止に伴い、85歳・95歳・100歳以上の方を対象に市内の事業所で割引などの特典が受けられる敬老祝事業の準備をすすめてきました。両商工会議所のご尽力で市内の130もの事業所にご参加いただき、また、敬老祝カードの作成には市内保育園の園児が一生懸命に取り組んでくれました。まさに全市をあげて、心のこもったお祝い事業を行うことができました。ご協力をいただいたみなさんに、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

表紙でご紹介の川本ヤスノさんをはじめ、市内在住の13人の100歳以上の方には、直接お会いして敬老祝カードをお渡ししてきました。世間の雑事から解放され、物事を達観されているからでしょうが、100年の年輪が刻む顔の表情は温かく、穏やかで、“畏敬の念”を抱かせるものでした。人生の大先輩に対してふしつけ不躰かもしれませんが、まさに“神々しい”という言葉

対話の日 【いずれの会場も19:00から】



9月13日(木) 栗田公会堂
9月27日(木) 目出新町自治会館
10月 9日(火) 吉部田自治会館

※山陽地区は河合病院事業管理者が同席します。

葉がふさわしいなという印象を受けました。これからもお元気で長生きされることをお祈り申し上げます。

海外派遣の中学生が無事帰ってきました

7月下旬より姉妹都市オーストラリアレッドクリフ市に派遣されていた6人の中学生が無事帰ってきました。本来、市の職員が担うべき随行者という大役を果たしてくれた福島さんには厚くお礼申し上げます。3ページの「夢いっぱい」に福島さんの人となりで紹介されていますので、将来の希望に満ちあふれた、魅力ある青年の特集記事をぜひ、ご覧いただければと思います。

また、掲載されている派遣中学生の体験記を読ませていただき、一旦は予算をゼロにした私が言うのもおかしいのですが、この事業が継続されて良かったとつくづく認識したところです。ご尽力いただいた小野田青年会議所、善意をお寄せいただいた市民の皆様に変更して感謝申し上げます。

かけがえのない経験をしたみなさんが、これからの人生の大きな糧としてくれることを希望します。

減免制度について

医療、福祉など社会保障の分野や、今年から実施された住民税の税率の引き上げに代表されるように、ここ数年の国の制度改正は市民に負担増を強いる流れとなっています。一方で、例外措置として設けられている「減免制度」の周知徹底がうまくいっていないために、該当しているのに、減免を利用していない方も多いのではないかと懸念を常々感じていました。今回、6ページにありますように、市の関連の減免制度についてまとめましたので、ぜひ、ご一読され、活用を図っていただきたいと思います。

最後に、11ページにある小さい記事ですが、8月から中央図書館の会議室を利用して、市内のNPO団体が多重債務者のための相談窓口を開設しました。多重債務に苦しんでいる方は山陽小野田市にもたくさん、いらっしゃると聞いています。市と連携し、秘密も厳守されますので、まずは一度、ご相談にいらしていただければと思います。